



Boy's Festival Ornaments, Utagawa Yoshifumi, 1852, Nagoya City Museum

【かざりつけ例】※たけひご（わりばしで代用可）、ひもが必要となります。



歌川芳藤は子どものための浮世絵版画である「おもちゃ絵」、とりわけこの作品のようなペーパークラフト(立版古、組み上げ絵)を得意とした浮世絵師です。芳藤は、あらかじめ自分で模型を作つて組み立てから完成図にしたそうです。実際に切りぬいてみると、とてもていねいに作られていることが分かります。今から250年前に作られた作品ですが、めずらしいことに、これまで組み立てられずに残りました。江戸時代の子どもたちにかわって、お楽しみください。

歌川芳藤 端午の節句 嘉永5年（1852）名古屋市博物館蔵（尾崎久弥コレクション）を、原寸の70%に縮小しています。

この作品は、特別展「挑む浮世絵 国芳から芳年へ」（2018年、名古屋市博物館ほか）で展示されました。

歌川芳藤と彼の先生、国芳について、もっと知りたい方はこちらをどうぞ。

«展覧会の詳細» <https://www.museum.city.nagoya.jp/exhibition/special/past/tenji190223.html>